

神楽名

かみ た ばる 上田原神楽

伝承地

上田原地区
白杵郡高千穂町大字田原

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

上田原神楽保存会
代表 河内 文男



柴荒神

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の上野・田原系統に属する神楽である。上田原地区は、戦国時代に山城が築かれた玄武山をはじめとする小高い陰阻な山々が連なる麓に位置する集落である。

氏神社の熊野神社は1242年、仁治3年に紀州熊野から勧請した神社で、古くは熊野三社権現と称されている。境内地には別当寺正膳寺跡薬師堂があり、鎌倉期の作である薬師如来坐像が安置されている。薬師堂を守護する仁王像は天保六年(1835)、延岡舞野の石工の利吉の作である。

上田原神楽のはじまりについては定かではないが、集落内の墓地に明治33年(1900)7月22日に往生した神楽大願祝子・内倉弥太郎の墓がある。その後、昭和30年頃に一時途絶えたが、昭和48年に保存会を再結成し、下田原神楽を習い、昭和51年2月に夜神楽を復活している。夜神楽は11の小組廻しの当番制で実施されている。

◆ 芸能の機会・場所

- 上田原夜神楽…2月10日前の土・日曜日、熊野神社にて神事後、神楽宿である公民館にて奉納
- 春祭り、秋祭り、歳旦祭に「式三番」などを奉納

◆ 演目一覧

宮神事	御神幸・道神楽	舞込み	御光屋	彦舞	太殿
神降し	鎮守	杉登	袖花	地固	幣神添
沖逢	太刀神添	住吉	火の前	四人武智	山森
柴荒神	弓正護	地割	五穀	杵舞・御神体	本花
岩潜り	七鬼神	武智神添	八鉢	大神	柴引き
伊勢神楽	手力男	鈿女	戸取り	舞開	注連引き
雲降し					

※平成27年2月の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。「地固」は耕地を讃え、水徳剣としての太刀の呪力により耕地を護り、悪魔を祓う国土安泰祈願の神楽といわれ、太刀を抜いての舞が中心となる。舞の終了後、御神屋中央に太鼓を置き、抜き身の刀をその上に立てる「地固」特有の神事がある。この神事は、上野・田原地区で多く伝承がみられる。演目の最後には、水徳を授ける儀式「宝渡し」が行われる。

岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」(「柴引き」「伊勢神楽」「手力男」「鈿女」「戸取り」「舞開」の六番)は夜明けに奉納され、最後に「注連引き」「雲降り」で神を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面...猿田彦、入鬼神、地割、杵舞、御神体、手力男、鈿女、戸取 等。
- 楽...太鼓、笛。
- 装束...白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子 等。
- 採り物...鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯、杵 等。
- 文書...「舞の手すじ」(昭和50年)、「上田原神楽の歩み」(昭和51年)等が保管されている。

❖ 伝承の現状・課題

近年は他の地区の神楽も取り入れ、33番の舞とともに、神楽唱教も暗唱して奉納されている。会員数は44名で、16名が小・中・高校生で構成されている。集落内の男子児童は、小学校入学とともに保存会に入り、土曜・日曜日のお昼を中心に練習をする。高校生、青年祝子者が小中学生に教え、夜神楽では番付の半数近くが児童・生徒により奉納されている。



彦舞



地固



手力男